

今水寺の謎

- ・大寺院がなぜなくなったのか？
- ・なぜ北向きに建てたのか？

かつて、真言密教の寺として栄えた今水寺の衰亡は、一説には野田の戦い（1573）の頃に武田軍に焼かれたとも言われるが、天正（1573～1592）の末には12坊も大方なくなり、慶長年間（1596～1615）には、熊野神社と本尊を祀った観音堂^{まつ}だけであつたらしい。これらのことから、本寺の全盛期は鎌倉・室町期であつたと考えられている。



今水寺跡に残る熊野神社の鳥居

鎌倉時代に入って、民衆救済のための新しい仏教が普及し始めた。それが浄土宗、浄土真宗、日蓮宗であり、武士に好まれた禅宗の臨済宗、曹洞宗である。こうした大きな仏教のうねりの中で、真言密教は次第に勢力を失っていった。今水寺、大脇寺などが衰退した一つの要因と考えられる。

また、今水寺のように北に面した山麓に僧坊を建てることは、他にあまり例がないとされる。遺構がすべて北西方向に面しており、その点も大きな謎になっている。ちなみに、北西方向には砥鹿神社の奥宮が鎮座する本宮山があるが……………。

地元八名井出身の「富安秀直」氏の推理（要約） 今水寺物語より

元龜2年（1572）、將軍足利義昭の織田信長討伐令を受けて、武田信玄は三方ヶ原で徳川家康に大勝する。翌年（1573）正月、宇利峠を超えて野田城を攻めた。1月あまりかけて落城させるも体調不良のため西上をあきらめ、甲州への帰路の途中、信州駒場で落命した。

<疑問>

- ・城兵わずか400の兵に2万5千の武田がなぜ2か月近くも要したか。

<推理>

- ・体調が深刻な状況で、進軍できる状況でなかった。今水寺で死去したのではないか。
- ・野田城攻めの時期は旧暦の正月明け、今の2月で厳寒期。陣幕だけの野営は考えられない。武田信玄は今水寺に本陣を構えたのではないか。

<根拠>

- ・野田城から2km、背後の憂いなく目視できる距離。あえて総攻撃をせず急がなかった。
- ・今水寺が信玄に焼かれ、僧が斬殺された伝承が地元に残る。
- ・信玄の重体、死が織田・徳川にもれば、武田一族存亡の危機となる。口封じのため、寺が焼かれ、僧が斬殺されたのではないか。